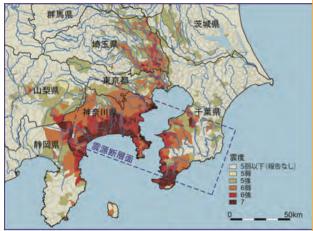


第1部 地震の正体を探る -関東大震災と地震学-



「関東地震の震源断層と詳細震度分布」



(浅草十二階) 関東大震災の絵葉書





第3回特別企画展

私は30年間、1923 (大正12)年に発生した関東大震 災の研究を続けてきた地震学者です。

震源、揺れ、被害について研究し、ここ 10 年余は震源 域の真上にあたる神奈川県と最大の被害を出した東京都 23 区を中心に、現地調査を行ってきました。その間、様々な疑問の解消に挑戦してきました。そもそも、震災を引き起こした地震の正体は。マグニチュード 7.9 というが根拠は。本震に引き続く余震の発生状況は。揺れ、火災、土砂災害、津波による被害は。人的・物的被害数や経済被害額は。大量の避難者の動向とその救済は。江戸・東京のほかの地震災害は。おぜ東京で最も大きな被害を出したのか。そして、東京市民は如何にして立ち直り、東京は復興したのか。

関東大震災から 100 年を記念してこれらの成果の一端を みなさんに伝えたい。自然災害大国日本に生きるみなさん が災害を考える上での参考になれば幸いです。

「酢修】夕古屋大学減災連進研究センク=特任教授武材雅力



「関東大震災の鳥観図」 (吉田初三郎作、大阪朝日新聞大正 13 年 9 月 15 日付録)

△減災館

Disaster Mitigation Research Building

減災連携研究センター

7月15日 (土曜日) 13:30 ~ スペシャルギャラリートーク①

武村雅之特任教授「地震の正体を探る-関東大震災と地震学-」

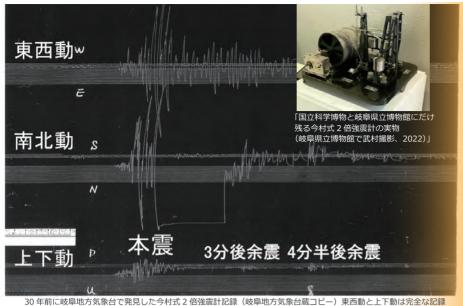
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Tel: 052-789-3468 Fax 052-789-5023 開館時間: 13:00-16:00 ※完全予約制 休館日:日祝・月・火曜日、最終土曜日 ※天候、行事等の諸事情により上記以外でも急遽休館になる場合がございます。 ※最新の情報は HP にてご確認ください。http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/



関東大震災から 100 年の今年に

第34回 特別企画展

展東大震災



第1部 5/10(水)~8/10(木) 地震の正体を探る -関東大震災と地震学-

我が国の地震学の歴史上、関東地震(関東大震災を起こした地震)の影響は非常に大きい。その渦中で活躍した今村明恒は、その後の震源解明につながる多くの資料を残した。それらを紐解きながら、明らかにされた関東地震の実像に迫まる。

- / 未四新七工「新は九王は山跡

第2部 8/30(水)~11/24(金) 震源直上で何が起こったか? -神奈川県の関東大震災-

神奈川県にとって関東地震は巨大直下型地震である。このため、県全体が震度6以上となり、震度7の地点も広範囲に及んでいる。私は10年余をかけて神奈川県下に残る慰霊碑、記念碑、遺構など関連物の全てについて現地調査を行ってきた。それらの結果をもとに地震時に震源直上で発生する様々な災害とその復興について語る。



建設当初の江戸橋と昭和通(『帝都復興史』第1巻, 1930)

第3部 11/29(水)~2024 3/28(木) 関東大震災が造った東京 -帝都復興事業とその後-

関東地震は海外で東京地震と呼ばれることがある。被害の中心が当時の東京市 15 区であったから当然のことかもしれないが、東京は必ずしも揺れの中心ではない。ではなぜ、震源から離れた東京で最大の被害を出したのか。その反省にたって東京はどのような街に変身したのか。にも拘わらず、なぜ今東京は首都直下地震に怯えなければならないか。それらを考えてみる。

△減災館

Disaster Mitigation Research Building

減災連携研究センター

スペシャルギャラリートーク

①7月15日(土曜日)13:30~

②9月16日(土曜日) 13:30~ ③2月3日(土曜日) 13:30~

企画展監修の武村雅之特任教授が『関東大震災』を語ります。

※見学申し込みの上ご参加ください。



詳細はこちらから